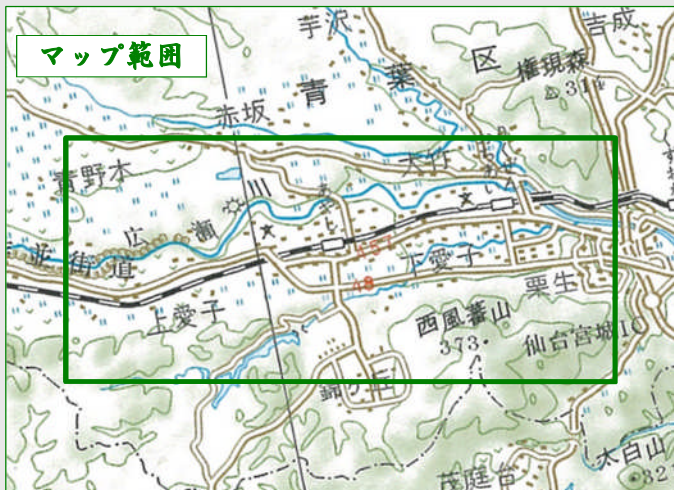


関山街道さんぽマップ

全5葉のうち（その2）
〔落合・栗生～上愛子下遠野原〕

マップ範囲



制作／関山街道フォーラム協議会
土の道部会

協力／みやぎ街道交流会

【縮尺】おおむね1:25,000（4cmで約1km）

500 0m 500 1000 1500

〔関山街道さんぽマップについて〕

- 1) このマップは、八幡地区から関山峠を越えた区間までの関山街道沿線の歴史などの地域資源を探訪出来るように作成したものです。（なお、関山峠を越えた区間からは、今後作成することを検討しています。）
- 2) 各地区で活動する団体が作成したそれぞれのマップ等を参考に統一的な様式でとりまとめたものです。

【参考資料】

「歴史探訪 関山街道を歩く」（平川新編集、2009年）
「仙台領の街道」（高倉淳著、2006年）
「宮城地区雑記控（増補版）」（宮城地区郷土史探訪会、2012年）
「いにしへの里 五郎八郎姫ゆかりの栗生・落合散歩マップ」（平成20年度落合市民センター マップづくり講座）
「身近な愛子の歴史を学ぶ」（愛子の郷交流会）

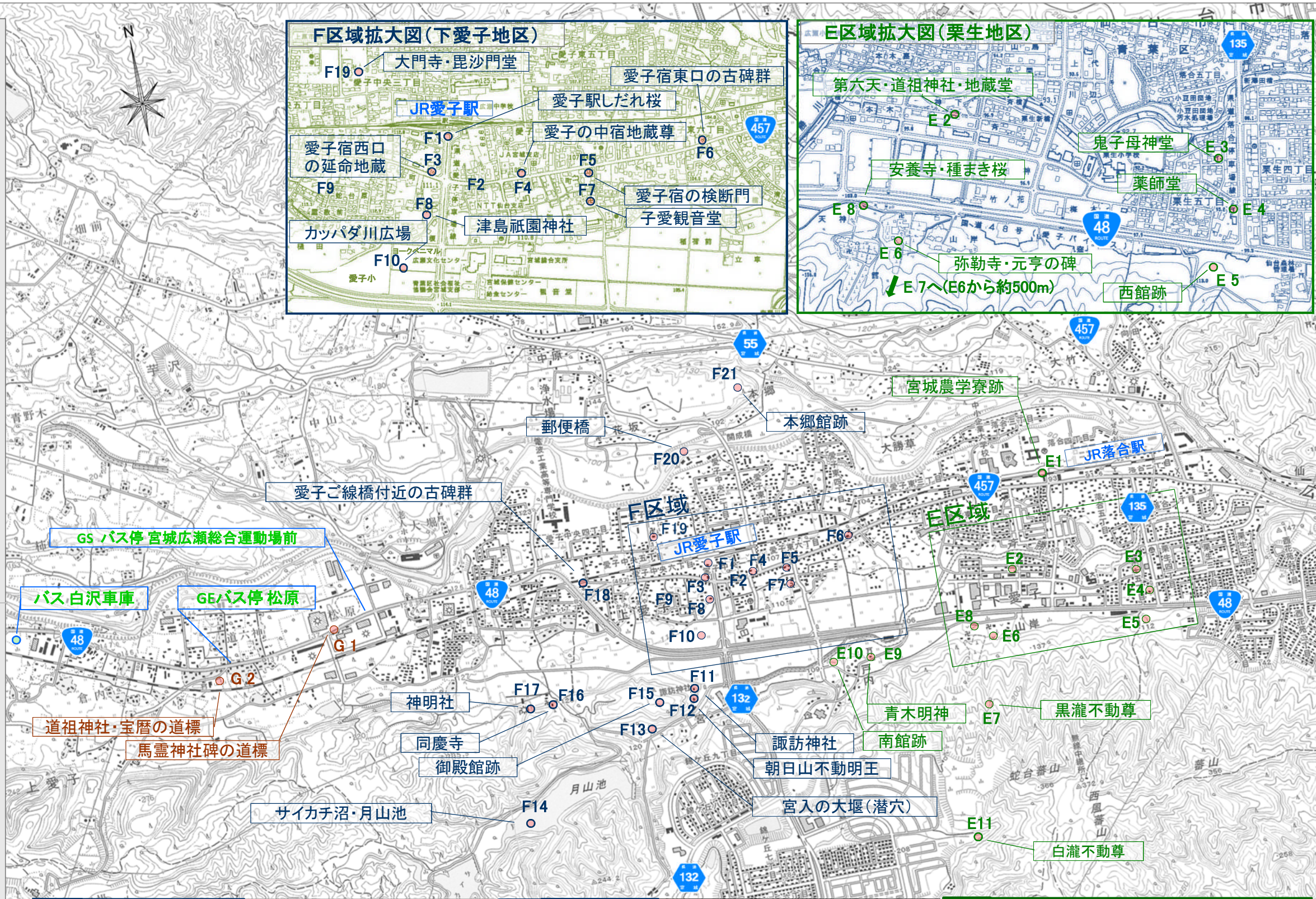
〔関山街道フォーラム協議会について〕

- 1) 関山街道フォーラム協議会は、関山街道沿線で活動している市民活動団体・企業・行政等が、地域の自然、歴史、文化、風土等の豊かな資源を掘り起こし、活用しながら地域活性化を目指している団体です。
- 2) 部会を設けて、「土の道部会」はマップ作成や探訪会等の事業を、「鉄の道部会」は関山街道と並行して走る仙山線に焦点をあてた事業に取り組んでいます。

【地図の複製承認】

- ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万1:1地形図及び2万5千分の地形図を複製したものである。（承認番号 平25 東複、第50号）
- ・うち拡大図は、仙台市長の承認を得て、同市発行の1万1:1都市計画基本図を複製したものである。（承認番号 平成26年1月10日 H25都計第1531号）
- ・第三者がこの地図を複製する場合は、国土地理院長、仙台市長の承認が必要である。

（平成26年1月作成）



F19 だいまんじ・びしゃもんど
大門寺・毘沙門堂



大門寺は昭和10年まで現在の宮城総合支所の位置にあった。火災で消失、昭和12年に現在の愛子中央に再興された。毘沙門堂は、『安永風土記』に元亀2(1571)年造営の棟札があると書かれている。上愛子村嶺岸の山頂にあったが、いつのころか移転したという。

F15 ごてんだてあと
御殿館跡



国分氏の家臣郷六氏の居城があった館ノ内と連動する詰め城であったようだ。曲輪群の大部分は崩壊している。また、水分神社もあり、諏訪神社が移された頃に祀られたという。

F2 あやししく
愛子宿



江戸時代の愛子宿の範囲は、東が月見橋(地元では月橋という、現在古碑が集められている所あたり)で、西は愛子駅交差点近くの延命地蔵までの約1kmである。

F11 すわじんじゃ
諏訪神社



国分郷33ヶ村総鎮守ノ宮。現在の本殿は、元禄6(1694)年に仙台藩4代藩主綱村が造営開始し、5代藩主吉村の時代の宝永2(1705)年に完成し、県重要文化財。神社境内には、明治16年まで、寺小屋「学び舎」があり、女性も習ったそうで、当時としては珍しいという。

E8 あんようじ・たねまきくら
安養寺・種まき桜



E2 だいるくてん・どうそじんじゃ・じょうどう
第六天・道祖神社・地蔵堂



宅地造成で1箇所に移転。第六天は他人の楽しみを自分の楽しみとし、道祖神は道の安全・夫婦円満、地蔵は人々を苦しみから救う。

この寺は、もと仙台市小田原にあった。寺入口の桜は樹齢400年、種まき桜と呼ばれ、農作業の目安にされていた。境内入口に天明8(1788)年の西方願主無量寿仏碑など30基ほど古碑あり、階段を登ると開山堂の中に聖徳太子像・子愛観音像が祀られている。また、梵鐘は、戦艦陸奥の自爆した一鉄片(20kg)をこの鐘の铸造する炉に溶かして常鐘の響きとしている。

関山街道散歩マップの解説
(落合・栗生～上愛子下遠野原)

1)街道沿線の神社仏閣の歴史資源などをE～Gのモデルコースに分けてそれぞれに番号を付して、おもて面の地図上の位置・番号と対比しています。
2)各コースとおおむねの地区名は次のとおりです。
Eコース(落合・栗生・下愛子地区周辺) Fコース(下愛子・愛子中央・愛子東・上愛子東側・芋沢(花坂・本郷)地区周辺) Gコース(上愛子松原・下遠野原周辺)
3)なお、下記資源の写真・説明は地図面に記載しています。
E2(第六天・道祖神社・地藏堂)、E8(安養寺・種まき桜)、F2(愛子宿)、F11(諏訪神社)、F15(御殿館跡)、F19(大門寺・毘沙門堂)

◆各モデルコースの距離

Eコース(JR落合駅⇒E1～E10⇒JR愛子駅) 約8.5km
(E11白瀧不動尊を含む場合は約13.5km)
Fコース(JR愛子駅⇒F1～F19⇒JR愛子駅) 約8.0km
(F14サイカチ沼・月山池・F15御殿館跡・F20郵便橋・F21本郷城跡を除く)
Gコース(GS⇒G1～G2⇒GE) 約1.0km
(Gコースは次区間のマップ(その3(上愛子下十三枚田～作並棒目木)のHコースのJR陸前白沢駅までと一体で探訪をお勧めします。)
※1 各コースはモデルと参考に設定したものです。
※2 距離は地図上で測定したおおむねの値です。
※3 各コースの起・終点は近隣のJR駅・バス停としています。
※4 地図上のバス停名の頭の記号は次のとおりです。
例)GS(Gコースの起点バス停)、GE(Gコースの終点バス停)

F 5



あやしゆくのけんだんもん
愛子宿の検断門

検断とは宿駅の運輸等に関する業務を取仕切る役職のことで、冠木門(通称:検断門)が復元されている。庄子家は江戸時代後期に検断を務めたといわれている。

F 6



あやしゆくひがしぐちのこひぐん
愛子宿東口の古碑群

政宗が仙台城下整備を始めた頃に、街道も整備され愛子・熊ヶ根・作並に宿駅がおかれ「町」と呼ばれた。この古碑のあたりが、かつて愛子宿の東口であった。

F 7



こあやしかんのんどう
子愛観音堂

『安永風土記』(安永3(1774)年)の「当村横町という所に子愛観音あり」。「愛子」の地名はこの子愛観音から名付けられたともいわれている。

F 8



つしまぎおんしゃ
津島祇園神社

天保の飢饉(1833,1835～37年)で疫病が猛威を振るい沢山の死者が出た。疫病を鎮めるため明治16年春、尾張津島神社から分祀された。

E 1



みやぎのうがくりょうあと
宮城農学寮跡

昭和10年創設。多くの若者が入寮し、農作物や果樹園芸栽培、家畜育成の講義・実習で、教養と実践力を学び、農業発展に寄与。昭和52年宮城県農業実践大学に引継がれ、昭和55年名取市に移転した。

E 3



きしぼじんどう
鬼子母神堂

本尊は訶梨帝母(かりてい)も木像で、左手に赤ん坊を抱き、右手にザクロ持っている。鬼子母神は安産や育児の神。訶梨帝母像はマリア像との見方もある。

E 4



やくしどう
薬師堂

元龜2(1571)年開山の万代山薬師寺(廃寺)の寺内に五郎八姫(いろはひめ)が建立と伝わる。薬師如来像と並んで「ロウソク食い」と呼ばれる木像が納められている。

E 5



にしだてあと
西館跡

松平忠輝(家康7男)の改易、配流により離縁となった政宗の長女五郎八姫が隠棲したと『安永風土記』にある。仙台城二の丸の西屋敷と混同したのではという見方もある。

F 9



じゃやだいはら
蛇台原

天明3(1783)年、冷雨と洪水で大飢饉、天明5年一転して大干ばつ。村人達は“蛇台原”で蛇形を造り、「西伴山」へ上げ雨乞いをしたという。絵は山頂の祈願所に飾ったもので諏訪神社が保管。

F10



かっぱだがわひろば
カッパダ川広場

愛子地区では、農業用水の干代老堀をカッパダ川と呼び、江戸時代初期からその清流を街道の水路に流し、家にも引込み生活用水として使っていた。平成24年暗渠化に伴いモニュメントとして設置。

F12



あさひさんぶどうみょうおう
朝日山不動明王

万治2(1659)年諏訪神社の別当院として朝日山龍泉寺が諏訪神社の境内にあった。明治の初め神仏分離令によって龍泉寺は廃寺になった。

F13



みやいりのおおぜき(くぐりあな)
宮入の大堰(潜穴)

サイカチ川から水を引くために、明治30年頃、御殿山の真下を掘るつもりが、岩が堅いため100mの隧道を掘って地表に出し、諏訪神社の階段下を通して愛子の田畑を潤している。

E 6



みろくじ・げんこうのひ
弥勒寺・元亨の碑

天台宗の寺があったが、戦国時代に曹洞宗になったという。境内には、元亨2(1324)年比丘了圓が先師供養のため建立した宮城地区で3番目に古い碑がある。

E 7



くろたきふどうそん
黒瀧不動尊

大同年中(806～809年)太郎坊瀧として開かれたと伝わる。本尊は不動明王像で、拝殿右側に太郎坊瀧、不動尊の線刻と小さな不動明王がある。雨乞いや病気快癒祈願したとの伝承がある。

E 9



あおきみょうじん
青木明神

戸内地区北東、最上古街道沿いにあり、地域の守り神で、寛正年中(1460～1466年)の棟札がある。境内脇に、明和8(1771)年の三猿の刻まれた青面金剛碑など15基がある。

E10



みなみだてあと
南館跡

『安永風土記』によれば、南館城主は国分盛重家臣・宣場丹後守重久と記されている。現在は、標柱が立っているだけで、館跡の面影はない。

F14



さいかちぬま・つきやまいけ
サイカチ沼・月山池

サイカチ沼は、大倉川の水道取水工事による四ツ谷堰、若林区六郷・七郷地区等の用水確保のため、大正6～10年にサイカチ川を堰き止めた人工の沼。その後、昭和14～24年に月山池が造られた。

F16



どうけいじ
同慶寺

国分氏家臣・郷六惣左衛門(後に森田)が郷六から上愛子二軒在家に移った時、現在地に移転した。境内に夜泣き地蔵と言われる赤いよだれかけ地蔵が安置されてる。

F17



しんめいしゃ
神明社

森田氏は、国分氏を先祖とし国分氏に仕え、二軒在家に館居した。4代目惣左衛門政友が神明社を建て、家中村人の安泰と五穀豊穰を祈願し、今も継承している。

F18



あやしこせんきょうふきんのこひぐん
愛子こ線橋付近の古碑群

JR仙山線と国道48号の愛子こ線橋及び旧道が交差したところに、文化元(1804)年の奥州33番観音碑など4基の古碑が立っている。

E11



しろたきふどうそん
白瀧不動尊

苔に覆われ小さな姿でひっそり立っている。その昔、番山には99ヶ所の滝が見られたと伝えられているが、現在、滝壺に清流が流れ落ちているのはこのみ。

F 1



あやしえきのしだれざくら
愛子駅のしだれ桜

子愛観音堂境内のしだれ桜の苗木を愛子駅開業記念(昭和4年)として植樹した。既に80年以上にわたって咲き続けている。

F 3



あやしゆくにしぐちのえんめいじぞう
愛子宿西口の延命地藏

愛子の宿場町は大部分が下愛子村にあった。上愛子村に属した宿場町は現在の愛子駅前交差点付近の延命地藏尊あたりまでである。

F 4



あやしのなかしゆくじぞうそん
愛子の中宿地藏尊

愛子宿場には飯坂茶屋・中野茶屋・デンコ茶屋の三軒の茶屋があった。ここに祀られている、お地藏さんは、中宿(中野茶屋)あたりの地藏尊である。

F20



ゆうびんばし
郵便橋

現開成橋の200～300m上流に郵便橋と呼ばれた丸太一本に手すりを付けただけの簡単な橋があった。芋沢花坂の人たちが管理し、昭和12年頃まで利用された。

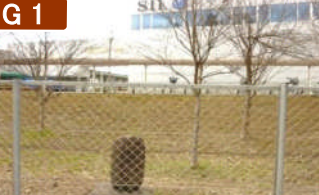
F21



ほんごうたてあと
本郷館跡

戦国期、国分氏の一族・家臣の居城であった。慶長年間(1596～1615年)に本郷六衛門盛重が城主とあり、『安永風土記』(1773年)に本郷城主は花咲勘解由とある。

G 1



ばりょうじんやひのみちしるべ
馬霊神社碑の道標

工場敷地内にある。明治33年馬霊神社碑に「是より七ツ石温泉まで三丁」と刻まれている。温泉が広瀬川河原沿いにあった。

G 2



どうそじんや・ほうれきのみちしるべ
道祖神社・宝暦の道標

道行く人々の安全、疫病や悪霊を防ぐ神として、道祖神が祀られている。神社向かいに宝暦4(1754)年の「左ハふたくち道 右ハさかの下道」の道標が国道交差点から移転してある。